

光州5.18民主化運動と教会の役割

金スンボン牧師（光州派ハンピツ教会）

（翻訳：山口明子）

．はじめに

今年で光州5.18民主化運動20周年を迎えた。今では「光州事態」を「暴徒たちの策動」だという人たちはだれもいない。数多くの人々が銃弾を受け、或いは刃にかかって死んだという言葉は、もうこれ以上、こっそりささやかねばならぬ流言飛語ではなくなった。

80年5月、光州の苦しみに対して「教会はどのように共に与かっており、その精神はいかに受け継がれているか？」という質問は、ちょうどマタイによる福音書25章に出てくるように、羊と山羊の群れに分けられて、最後の審判を受けているような感じがする。それにもかかわらず、小さな力ではあるが、この20年間、5.18犠牲者たちの痛みと苦痛をともにしてきた教会の歩みの跡を振り返りながら、これから進むべき新たな道を模索しようと思う。

．5.18民衆州抗争当時のプロテスタント教会に活動

1980年5月18日、光州は血生臭いにおいとと叫び声に満ちていた。市民たちの大々的な抵抗が起こって、戒厳軍と市民たちとの衝突が続いていたが、軍人たちによって市民軍が鎮圧された後の光州は、挫折と絶望の都市、死の都市であった。このようにみな首を縮めるほかなかった厳しく、暗澹たる状況の中ではじめて活動を始めたのは、数名のキリスト者たちであった。カン・シンソク（姜信錫）牧師、チョ・アラ（曹阿羅）長老、ウン・ミョンギ（殷命基）牧師、アン・ソンネ長老、ユ・ヨンチャン牧師、イ・ミョンジャ（李明子）執事などを中心に遺家族と負傷者の家族を助けるための集まりが作られた。

1) 光州市キリスト教非常救護委員会構成（80年5月20日）

1. 道庁市民収拾対策委員会に代表を送りこむ
2. 各教会の献金によって遺体を安置する棺と死者に着せる衣の購入、5月29日を最終とし

て、マンウォルドン（望月洞）墓地で47体の遺骸の合同葬儀 を挙げる。

3. 各病院で治療中の負傷者の面倒を見る
4. 5月27日以後には、保安司令部や獄に捕われている人々を助ける。

2) 拘束者家族会結成(80年9月)

1. 光州関連拘束者たちは暴徒でないことを明らかにし、彼らが速やかに釈放されるように署名運動をする。
2. 明洞聖堂での4日間のろう城で、当時死刑の宣告を受けた3名3. (チョン・ドンニョン、ペ・ヨンジュ、キム・チュンベ)が減刑された。

・80年以後の教会の役割(5.18被害者の家族のために)

1) 追悼礼拝

81年5月18日、韓国キリスト教長老会光州老会を中心として光州ハンピッ 教会で「光州犠牲者追悼礼拝」がはじめられ、今まで継続しているが、81年の追悼礼拝は完全に封鎖されて、YMCA前の路上でささげられ、民主化を闘い とるための声明書の発表によって、キム・キョンシク牧師、キム・ヨンジン長老が拘束され、カン・シンソク牧師とイ・ヨンセン執事ら19名が連行された。

2) 5.18抗争直後の犠牲者家族を助ける委員会組織

各教会の募金運動及びドイツ、カナダ、日本など外国の協力を求め、多くの助けを得た。

1. 犠牲者家族の生計維持のための食糧支援
2. 犠牲者家族子女学費支援
3. 負傷者治療 光州キリスト教病院と姉妹関係を結ぶ

3) 5.18関連団体の組織と運営

教会指導者たちが主体となり、軍事政権下で脅迫と恐喝を恐れて散り散りになっ て隠れていた家族や負傷者を探し出し、さまざまな組織を運営した。

1. 5.18負傷者会
2. 5.18拘束者会
3. 遺家族会
4. 民主化実践家族協議会

4) 苦難を受けている者とともにささげる礼拝

1. 木曜祈禱会 1975年維新政権に抵抗して毎週木曜日に始められた祈禱会であったが、80年以後、5.18遺家族と負傷者たちのための祈禱会にかわった。木曜祈禱会は被害者たちの交わりと慰め、そして闘いの場となる。
2. 苦難を受けている者と共にささげる礼拝 1980年12月最後の木曜日に光州ムジン教会で始まり、今まで続いており、軍事政権当時、5.18事態報告及び、歌やシュブ

レヒ・

コールを叫ぶことの出来る唯一の場所であった。

5) 5.18記念事業推進委員会発足(1984年)

1. 結成場所 韓国キリスト教長老会光州ケイリム教会
2. 犠牲者を助ける基金助成 各教会を中心に記念メダルを作って販売
3. 5大綱領制定によって民主化運動を展開
 - 5.18真相究明
 - 5.18虐殺責任者処罰
 - 5.18犠牲者に対する名誉回復(当時「暴徒」と規定された)
 - 被害の補償
 - 5.18記念事業会結成

6) 宣教の自由守護委員会の結成(1987年5月18日)

光州キリスト教界(進歩と保守)が総連合して宣教の自由守護委員会を結成し、数千名のキリスト者たちが道庁前でデモをした中で、無差別な催涙弾発射にも屈せず最後まで持ち場を守り、抵抗したことによって、催涙弾無力化デモという別名を得た。このデモが集会文化の新しいモデルとなって6月抗争の主要な一角として全国に影響を与えた。

7) 制度圏(政界)進出

韓国キリスト教長老会所属ムン・ドンファン(文東煥)牧師、キム・ヨンジン長老などを国会に進出させ、議会活動を通して公式的な立法活動を展開した。この人々の活動により「5.18真相究明特別委員会」「5.18現場調査委員会」が結成され、5.18聴聞会が開かれ、5.18問題解決の基盤が造られた。

・むすび

韓国現代史における最も大きな悲劇であった5.18光州民衆抗争は、過去20年間の闘争によって作りだされた特別法の制定と被害者に対する補償及び名誉回復、記念事業など、部分的かつ外形的ないろいろの成果にもかかわらず、発砲責任者、死亡者の数、ひそかに埋葬した場所の調査発掘、行方不明者問題、米国の介入及び責任の如何など、徹底した真相究明が行なわれず、依然として、多くの部分が宿題として残っている。物質的な補償で解決できない、被害者の受けた肉体的、精神的傷痕は、依然として存在しており、多くの人々がそのときの傷痕に苦しんでいる。

過去20年間、教会は彼らの痛みを共に担い、直接的な助けを与え、被害者の側から事件の真相を知らせ、隠された事実を明らかにするなど問題解決のため積極的に闘ってきた。しかし、今は教会が、被害者たちが過去に経験した衝撃的な事件と被害妄想、死に対する恐れなど、精神的、心理的な問題に関心をもたねばならない。被害者たちが加害者たちを赦し、自分自身に起こったひどいことを落ち着いて受け入れ、同時に自身の

痛みを民族の痛みとして理解することによって自らの傷を癒すように助けるのである。

その間、関心を支援を惜しまれなかった世界の教会に感謝する。5・18は未だ終わっていない。未だ解決されていない問題のため、今後も私たちの活動は続くであろう。みなさまの持続的な関心と祈りを願います。

KIM Seung-Bong, 1952, lives at Kwangju-Shi, Korea
Studied at the Hanshin-University, Suwon
Presently serving the Hambit-Church in Kwangju as pastor.